

1 3 会報委員会

一 活動のテーマ

会報『安曇野教育』の編集・発行を行う。本教育会の行事や事業内容、各種委員会や同好会の活動の様子について掲載し、情報紙・機関紙としての使命を果たす。

二 活動の成果

会報『安曇野教育』を5回発行した。内容は次のとおりである。

(1) 第31号 7月6日(金)発行 600部

- ・巻頭言「つどう、あつまる教育会」宮下 正 教育会長（堀金中長）
- ・平成24年度安曇野市教育会役員・会務の分担
- ・公益社団法人として新たな第一歩 ～安曇野市教育会総集会開かれる～
- ・会員発表「美術教育における工芸の一考察」 <要旨>
- ・会員発表感想「会員発表を聴いて」
- ・講演「学校生活に不器用さをかかえる児童・生徒への支援の実際」 <要旨>
小栗 正幸（特別支援教育士スーパーバイザー 宇部フロンティア大学臨床教授）
- ・講演会感想「不器用さをかかえる生徒に寄り添うこと」
- ・東西南北
- ・安曇野市教育会平成23年度収支決算書、平成24年度収支予算書
- ・初任者歓迎研修会
- ・初任者歓迎研修会感想「安曇野と私と」
- ・郷土の文化財⑩「昆虫標本・オオルリシジミ」

（郷土文化財センター運営委員会 以下同じ）

(2) 第32号 7月25日(水)発行 600部

- ・巻頭言「恩師」伊藤 可主也 常任委員長（穂高西小長）
- ・「各種委員会に期待するもの」宮澤 純子 常任委員（穂高南小長）
- ・東西南北 丸山 行宏（豊科南小長）
- ・各種委員会年間活動計画
- ・総集会行われる
- ・安曇野の先人等に学ぶ会
- ・郷土の文化財⑪「細萱美穂人作 八十書記」

(3) 第33号 10月15日(月)発行 600部

- ・巻頭言「学然後知不知」唐木 博夫 常任委員会副委員長（三郷中長）
- ・東西南北 山崎 芳實（穂高北小長）
- ・実技講習会（各講習会からの報告）
- ・安曇野巡検行われる
- ・「安曇野巡検に参加して」
- ・郷土の文化財⑫「昭和八年 小学校裁縫科教授要目 南安曇郡裁縫研究会」

(4) 第34号 12月10日(月)発行 1100部

- ・巻頭言「感動はエネルギー」降旗 良治 常任委員（豊科北小長）
- ・安曇野の子どもを語る会、各分散会の様子
- ・安曇野往来「歴史豊かな木曾から」丸山 信夫（木祖村立木祖小長）
「地域の象徴として」
「共育クローバープランに込められた不易」
「子どもは教師の鑑」
- ・各種委員会からの報告
- ・東西南北 塩野 治幸（堀金小長）
- ・郷土の文化財⑭「昭和六年に豊科で採集されたタガメの標本」

(5) 第35号 3月 1日(金)発行 600部

- ・巻頭言 宮下 正 教育会長（堀金中長）
- ・「教育会この一年を振り返って」
- ・学校代表者会開かれる
- ・同好会からの報告（各同好会幹事長から）
- ・東西南北 幅 明洋（豊科東小長）
- ・郷土の文化財⑮「高田好胤書『道』(色紙)」

三 活動で深まったこと 及び来年度に向けて

- (1) 本委員会は、教育会の公益社団法人化に伴う組織改編により、昨年度までの会誌会報委員会が会誌と会報に分かれ、会報専門の委員会として4名で活動してきた。全員が会報の編集経験のない者だったが、昨年度から引き継いだ電子メールによる電子データ入稿のおかげで、時間的な無駄がなく能率的に編集することができた。
- (2) 教育会の公益社団法人化に伴って、決算書・予算書、総集会の報告など、従来の会報にはなかった内容も記事にした。今後も、教育会の機関紙としての使命が果たせるような紙面構成を更に考えていきたい。
- (3) 第34号は、安曇野市外で活躍されている先生方から原稿を執筆していただくと共に、会報を全県の安曇野市出身の先生方にお配りした。また、この号では「安曇野の子どもを語る会」の様子を特集したので、参加団体にも配布し、広報の役割を果たすことができた。
- (4) 執筆者には、原稿の締め切りを概ね守っていただき、ありがたかった。
- (5) 会報委員として取材のために教育会の各種行事に参加することができ、委員自身も研修を深めることができた。
- (6) 印刷原稿は、一太郎で編集して印刷所に渡している。ワードでも編集できるようにするのが昨年度からの懸案事項になっているが、実現できていない。来年度に向けた課題にしたい。